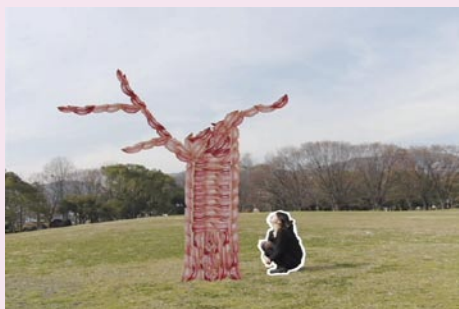





広島国際学院  
創立83年



ビデオ映像「僕と仲間と未来の種」  
情報デザイン学科 第3期生  
(平成22年3月卒業)  
渡邊 裕季(山陽女学園高等部出身) 制作

教育研究・課外活動ともに実る

特集 施設設備	2・3
時代が求める研究を推進	工学部 4
アートに触れ、高まる創造力	情報デザイン学部 5
貴重な経験、未来の糧に	現代社会学部 6
メカニックへの道、視界良し	短期大学部 7
高校から発信	8・9
第43回高城祭「決意」を終えて	10
袋町キャンパス開所記念講演会	10
留学生の声	11
図書館懸賞作品コンクール審査結果	11
名誉教授 高須登先生ご逝去	11
タイ王国農業省との協定によるタイ人博士誕生	12
今後の主な行事予定	12

広報  
第84号  
平成23年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>  
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

## ゲーム実習室

今年度完成したゲーム実習室には、ゲーム作品の事例研究ができるようにゲーム機器が設置されています。設置されている1980年頃を代表する家庭用テレビゲーム機から現在までのテレビゲーム機を体験することにより、学生が授業でゲームを制作する時に参考にし役立ててもらいます。室内の照明についても通常の蛍光灯やスポットライトが使用できることから環境・雰囲気を変えて、学生が制作した作品を体験・鑑賞できます。また、2台の大型スクリーンや42・19インチディスプレイで学生自ら制作した作品を体験することができます。さらに、廊下側から展示されている歴代のテレビゲーム機を見ることができ、これらのゲーム機も体験・使用することが可能です。

ゲーム実習室は授業で使用していない時に、情報デザイン学科の学生が一定の規則の下で使用できることを前提にしています。現在は試行的段階として、ゲーム実習室の使用を希望する学生は、チューター単位で使用できるようになっています。



オープンキャンパスでゲーム作品を体験する参加者

## Mac演習室



Mac演習室

情報デザイン学部今年度新しく完成したMac演習室1 (Mac 1)には、27インチという広大な画面を持つ44台のiMacを設置しています。プロフェッショナルの現場で使われているソフトウェアと同じものを使いながら、授業や演習の中で実践的なスキルを習得できます。この他、室内の大型スクリーンを使って、各自の制作した作品を発表したり鑑賞したりすることもできます。演習室は廊下から授業の様子が分かるように、ガラス張りとなっています。

また、昨年度春に完成したMac演習室2 (Mac 2)には、24インチディスプレイを持つ54台のiMacを設置しています。アニメーションや映像制作、3次元コンピュータグラフィックスなどの授業で使用しています。基本操作からコンピュータを使ったデザインや映像制作を行っています。

これらの演習室は授業がない時には、デザインの練習や制作のために学生が自由に使うことができます。

## 新しいデッサン室開設

2010年後期より、中野キャンパス10号館2階に「デッサン室」がオープンしました。現在、「デッサン」や「イラストレーション」の授業で使用されています。授業で学生が制作した優秀作品を壁面に展示し、高校からの施設訪問やオープンキャンパスなどでも紹介、使用しています。

新しいデッサン室は、コンピュータ室には持ち込むことができない「水」を使用することが可能な教室であること、また、広い床を確保し、そこに作品を広げて作業することが可能です。手作業の作品はもとより、コンピュータで計画した作品表現の可能性も広げる教室の開設となりました。

道路側の窓からは、石膏像がみえるレイアウトとしており、入試課や教務課を訪れる高校生、一般の来校者にもデッサン室が目に入るようになりました。授業開講時には、窓から石膏像越しに、学生が熱心に作品を制作している様子を見ることができます。



広々としたデッサン室で手ほどきを受ける学生

# ものづくりセンター



ものづくりセンター

本大学は2009年度、各学部学科・各専攻の枠に囚われず横断的に「ものづくり教育」や「地域産業との産学連携」を推進するため、中野キャンパスに「ものづくりセンター」を整備しました。

「ものづくりセンター」内の作業スペースでは、軸傾斜小型万能横切盤、糸鋸盤、卓上ボール盤、電気溶接機、粉碎器、電気炉、静電噴霧塗装装置等を設置。学生の自由な発想に基づいた設計で「ものづくり」の面白さを体験させ、また「ものづくり教育」を通じて産業技術の重要性を再認識させて、地域製造業に役立つ人材を育成しています。

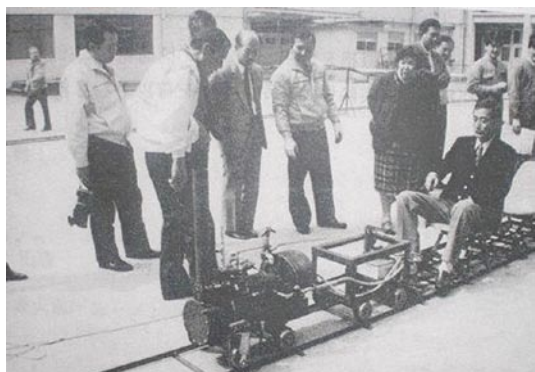
環境教育スペースにおいては、ソーラー・風力ハイブリット発電装置等を設置するとともに、食用廃油を原料としたバイオディーゼル燃料の製造装置、洗米排水等を原料としたエタノール車、電気自動車等、環境・省エネルギーに関する実証実験を通じて、環境・省エネルギーに関する実務能力と専門知識を身につけさせることにしております。なお工作・



太陽光発電装置

環境教育の両スペースでは、作業の安全性や快適性を確保するため、2010年度予算で新たに照明設備や空調設備を増設しました。

展示スペースでは、天井や壁面を改装し、工学部・情報デザイン学部・現代社会学部の研究成果を一同に展示しています。これ



蒸気機関車の製作時に撮影された試運転の風景

により、地域の自動車・機械・金属・電気・食品・木工・環境等の関連企業の技術者・研究者と、幅広い技術分野での意見交換を通じて、技術移転及び産学共同研究の推進、技術指導相談、異業種交流の実施、情報提供等を図ることにしております。

近々の「ものづくりセンター」における活動計画の一つとして、蒸気機関車の復元が挙げられます。本大学の系列校である広島国際学院高校で20年ほど前に製作され、現在はお蔵入りしている蒸気機関車を、同校との「高大連携ものづくり」の教材として利用。「先人の知恵と技術に学び、新しい知恵と技術を付加する」を目指した「ものづくり」を展開する計画です。

## 学生談話室

2010年5月10日、6号館1階の学生談話室が運用を開始しました。原則として常時開放(8:30-19:00)で、誰でも自由に利用できます。この学生談話室の整備には、学生グループ「Campus Life Project(CLP)」の提案も反映されて



学生の提案を入れさらに整備が進む学生談話室

ています。CLP提案のコンセプトは「リラクゼーション→コミュニケーション」でした。まず、リラクゼーションの確保。憩いの居場所として、休み時間や放課後に人が集まりやすい雰囲気と設備を提案しました。つぎにコミュニケーションの展開。ミニコンサートやサークル活動の作品展示会、高城祭・オープンキャンパスなどのイベント時において、学生同士の、また学生と教職員・地域の人々・高校生とのコミュニケーションの輪を広げる場とする活用法を提案しました。このCLP提案に沿って、可動式の机と椅子、ホワイトボードが設置され、また廊下側壁面の透明化がおこなわれるなど、現在も漸次設備が整えられています。今後、さらに整備が進むにつれ、活用法も広がっていくことが予想されます。

# 時代が求める研究を推進



左から電気自動車(黄)、バイオエタノール利用車(赤)、水素自動車(白)

## 広島市環境局主催「エコまつり」に出展

10月9日、広島市環境局中工場(広島市中区南吉島)で開催された「エコまつり」に、環境貢献活動の一環として本大学にて製作もしくは教育活動に用いられている電気自動車とバイオエタノール燃料車両を出展しました。

昨年に引き続き2度目の出展になりますが、本年度は初めて電気自動車を展示。太陽光発電と組み合わせ、エネルギー自給を可能にした環境に優しい電気自動車利用に関する取り組みの紹介も行いました。なお、まつり当日は、本大学から両車両が会場まで自走で移動しました。

広島市環境局からは、水素燃料を発電に用いるロータリーエンジンを採用したハイブリッドカーの展示もあり、エコ&エコカー三昧の展示活動となりました。

## 広島県インドビジネスマッチング・産学連携セミナーに参加

11月7日から13日まで、インドのタミル・ナドゥ州・チェンナイ市で開催された「広島県インドビジネスマッチング及び産学連携セミナー」に、本大学地域連携センター長である佐々木健教授が参加しました。上記期間中において、同州と広島県との間で、企業進出に関する協定調印式(湯崎広島県知事が調印)が執り行われました。また、同市内に位置するアンナ大学で、大学関係者に対し広島大学と本大学の紹介をともに行い、本大学のバイオテクノロジー、環境技術に関する交流を行いました。



アンナ大学で本大学の紹介および学生募集を行う佐々木教授。手前左：湯崎知事、右：アンナ大副学長

さらに本大学客員教授であるインド・ラベンショウ大学のダス先生、私立大学のSRM大学、複数の日本語学校との交流も実現。さらにビジネスマッチングに参加された広島県内の企業との親睦を深めるなど、国際的な交流と広島地域との連携の双方を深める事ができました。

本大学は、今後もセミナーで得られた成果を基に国内外との連携を推進します。

## 財団法人ソロプチミスト日本財団「環境貢献賞」受賞

11月25日、アイテムえひめ(愛媛県松山市)にて開催された財団法人ソロプチミスト日本財団・平成22年年次大会において、工学部総合工学科・渡辺昌規准教授が「環境貢献賞」を受賞しました。



渡辺昌規准教授と同研究室バイオマス研究チーム

本賞は全国の地域社会において、日常生活の中で地道に活動をしている人から、将来の環境保全を目的に調査、研究などを行っている専門家を対象にした賞であり、全国から5名の個人、団体が表彰されました。渡辺准教授はこれまで、デンプンを含む米のとぎ汁やうどん等のゆで麺排水の浄化・バイオエタノール等への再資源化、並びに水資源リサイクルシステムの開発に従事するとともに、地域と連携した環境保全に関する啓発を行うなどの諸活動が評価されました。

なお、本受賞内定については、9月7日付・中国新聞(朝刊)にて報道されました。

# 情報デザイン学部 ▶ アートに触れ、高まる創造力

イラストレータ佐々木悟郎先生

## 「イラストレーションの世界」

11月6日、朝日新聞の連載小説「獅子頭：シーズトオ」のイラストを描かれているイラストレータ佐々木悟郎先生の講演会とワークショップを開催しました。佐々木先生は、本学科創設時からたびたび学生をご指導くださっています。

講演会は、袋町キャンパスで情報デザイン学部の授業「情報デザイン特論」を兼ねて開催され、スライドで作品をみながら解説をしていただきました。また、最新作「獅子頭：シーズトオ」の原画をはじめ、コンセプトノート、書籍等、貴重な資料も鑑賞させていただきました。講演会終了後は、学生からも熱心な質問が数多く寄せられました。

ワークショップは、平和公園で開催され、風景を透明水彩で自由に表現、講評会も行われました。今回は一般参加で、佐々木先生のイラストレーション教室に神戸まで出かけるという熱心なファンの参加もありました。

今回のポスターは、4年生の山下哲史君(英明高校出身)のデザインで、「イラストレーションの世界」というテーマから、佐々木先生の作品と地球を構成し、宇宙を想像させるデザインに仕上がっています。



山下君デザインによるチラシ



佐々木先生による  
デモンストレーション

## 島根県へ美術鑑賞の旅

### 「ロボットと美術〈機械×身体のビジュアルイメージ〉」



ロボットについて幅広く伺った講義

11月20日、「情報デザイン特論」の授業で1年生が、「ロボットと美術〈機械×身体のビジュアルイメージ〉」というタイトルの企画展を島根県立石見美術館で鑑賞して来ました。この企画展は、産業や医療現場からマンガやアニメまで、社会において重要な役割を担っている「ロボット」を「美術展」という方法で多面的に紹介した子どもから専門家まで楽しめる展覧会でした。島根県立石

見美術館と青森県立美術館、静岡県立美術館の共同企画で、当日は、3館の担当学芸員が揃って本大学の学生のために30分程度の講義をおこなってくださいました。学生達は、最先端のロボティクスからアニメ、現代アート作品まで幅広いロボットのお話を興味深く聴講、その後、展覧会場で各自自由に鑑賞しました。



展覧会場で作品を鑑賞

# 貴重な経験、未来の糧に

現代社会学部

## 一年生、大学祭に元気に参加 —おでん屋台を出店—



全員の協力で成功を収めたおでん屋台

10月23～24日に中野キャンパスで行われた大学祭「高城祭」にて24日、現代社会学部1年生の学生によるおでん屋台などが出店されました。

当日はあいにくの雨で、来場者が当初の見込みより少なかったものの、気温が低かったため、おでんの売れ行きはまずまずでした。おでんのボリュームと価格設定も、お客さんの心を掴んでいました。おでんの味付けがとてもおいしく、大根をはじめ、すべての具に味がよくしみ込んでいました。

学生たちは、前日の買い出しから仕込みまで、役割分担し全員が協力して準備をしていました。おでん屋台の出店を通して、人と接する楽しさや、価格設定、販売などにおける大変さも経験できたことと思います。今回の経験を生かして、これから各種イベントで大活躍してくれることを期待しています！

今回の大学祭では、実行委員会やサークルの屋台出店などで、あちこちに現社の学生が活躍する姿が見られました。みなさん、お疲れさまでした！

## 北川建次先生による被爆体験証言

去る10月3日の3コマ目、現代社会学部1年生のプレゼминаールでは、全体行事として被爆体験証言者である北川建次先生のお話を拝聴しました。先生は広島市のご出身で、1945年8月6日、竹屋国民学校(小学校)5年生の時に教室内で被爆されたそうです。始業前の朝8時15分、校庭で遊んでいたクラスメイトは光線と爆風により全滅だったと話されました。原子爆弾投下時のクラスの様子、投下直後の暗黒の世界を幾種ものスライドを用いてお話してくださいました。同時にご母様やご兄弟を亡くされ、放射能の影響で病弱なお父様との生活。生活をめぐる父と子との葛藤など、あたかも自効じがうされているかのようなお話しぶりに、伺っているうちに思わず目頭めがしらが熱くなりました。私たちは戦争の悲劇を忘れてはなりません。人の痛みの分からぬ人間になってはなりません。

先生は広島大学で長く教鞭をとられ、後に10年近く現代社会学部で教授を務められました。広島大学名誉教授、広島ユネスコ協会会長、前ユネスコ日本国内委員。



証言する北川先生

## インターンシップ・ボランティア体験報告会

11月24日、インターンシップおよびボランティア体験報告会が行われました。

インターンシッププログラムに参加したのは廖玉嬋さん(重慶市出身)、陳紅敏さん(四川省出身)、汪麗莎さん(遼寧省出身)の3人の3年生でした。中国からの留学生として、日本のサービス業に関心を持ったことがインターンシップの授業を取ったきっかけだと話しました。



発表を行う廖玉嬋さん

一方、ボランティア体験に参加したのは、遠藤美奈さん(福山葦陽高校出身)、溝下歩さん(広島皆実高校出身)、甲斐美佳さん、齊藤圭佑君、山下一輝君(ともに広島国際学院高校出身)の1年生5名でした。イベント、公共施設での子どもの健全育成プログラム、託児ボランティア、児童館など、それぞれ様々な場所で体験したボランティアについて、内容の詳細とともに、そこで得たもの、苦労したことなどについて話しました。

発表を聞いた1年生たちは、それぞれの体験報告に熱心に聞き入るとともに、インターンシップや「ボランティアとNPOの社会学」の授業への関心を高めていました。



真剣に見学する学生

## 整備のフロを目指して 一車検場見学一

9月10日、1年生就職ゼミ「ゼミナールR」の授業で、自動車検査独立行政法人 中国検査部に伺い、2班に分かれて講義説明と現場の車検の見学を行いました。

講義は国土交通省中国運輸局の萩原正男陸運支局専門官にお願いしました。本短大部の卒業生でもある萩原専門官は、道路運送車両法の変遷や道路交通法との違い、車を維持管理するうえでの点検整備の重要性について、具体例を交え分かりやすくご説明くださいました。一方検査場では、森山泰司企画官より排出ガスの測定方法やブレーキ、ヘッドライト性能測定、更に安定傾斜角度測定方法や車の車格(3ナンバーか5ナンバーを決める)諸元測定など、道路を安全に走行する基準について一連の流れを伺いました。猛暑の中にも拘わらず検査場には緊張感がみなぎり、現場の雰囲気を生々しく体験することができました。

高校卒業から日の浅い1年生の学生諸君にとって、今回の車検場見学は有意義なものとなりました。現場・現物を体験することで、普段の講義や整備実習が何のための授業か相当理解が深まったことと思います。今後の彼等の飛躍が期待できます。

### 研修旅行 part3

## ダイハツ九州工場見学と友情・思い出づくり

### 生活指導委員会

9月6～7日、社会勉強と友情を深めることを目的に研修旅行を行いました。

1日目は、自動車短大部を8時20分に出発し、壇ノ浦で昼食を済ませ、最初の見学地であるダイハツ九州(株)大分(中津)工場を訪問しました。この工場は2004年に操業開始された先進的環境モデル工場です。最新鋭の設備が導入され、ハイゼットトラック、ビーゴ、ミラなどが生産されています。工場では高品質を生み出す組み立てラインから最終の検査ラインなどの生産ラインを見学しました。人と環境に優しい21世紀型の工場を見ることができました。その後、福岡市内のホテルに到着し、初日の日程は終了しました。ホテルから早速夜の中洲の街へ「社会勉強」に出て行く学生もいました。

2日目は、福岡Yahoo! JAPANドームの「王貞治ベースボールミュージアム」など色々な施設を見学し、二軍選手の試合を観戦しました。午後からはスペースワールドで、様々なアトラクションや、グッズ&ショップでの買い物など、思い思いに過ごしました。学生たちは楽しい思い出づくりができたと思います。



ダイハツ九州工場にて

## 「保護者懇談会」の開催 一就職の厳しさ反映 保護者多数が参加一

1年生の保護者を対象にした保護者懇談会が10月30日に開催されました。

この懇談会は例年、学生の就職活動が本格化する2月に催していましたが、本年度は就職試験の早期化や厳しい就職が予想される事から、秋からの会社訪問、2月からの採用試験に備え早めの開催となりました。

全体会では奥田学長の挨拶の後、知名短期大学部長が本短大の概要に加え、高い進路内定率や2級自動車整備士国家資格の合格率などを紹介。またこれらを維持する「とことん面倒を見る」をモットーとした、きめ細かな教育体制についても解説しました。続いて谷岡教務委員長が「褒めることの大切さ」や「単位取得条件」などについて説き、最後に川口就職課長より企業からの最新情報を交えた就職戦線の厳しさなど、今年度とこれからの状況説明がなされました。



保護者懇談会

全体会終了後、個別懇談に入りました。来学された保護者の方々に7名の教員が対応。「学生の成績」「学生生活状況」「就職活動」など、将来に向けての懇談が行われました。

## オープンスクール

過去最高となる2,000名以上の中学生・保護者の方にお申込みいただいたオープンスクールが、9月26日に開催されました。今年は猛暑が長引き、当日も熱中症が心配だったため、朝の受付場所でミネラルウォーターを配布したり、体育館に巨大クーラーを設置したりするなど様々な対策を取りました。当日は少し涼しくなったこともあり、体調不良者も出ることなく無事開催できました。

半日という限られた時間内で、参加してくれた中学生に



大勢が参加したオープンスクール

本高校の雰囲気をしっかり味わっていただきたいという思いから色々な計画が実施されました。当日は総計350名以上になる本高校の生徒と教職員によって広島国際学院高等学校の日常風景を再現し、参加者に見ていただきました。

公開講座では、本高校教員による授業だけではなく、広島国際学院大学の先生方によって総合学科の生徒を対象に行われる講座も行われました。他の高校ではなかなか真似ができない「大学の先生による高度な授業」です。この高大連携授業は、本高校の総合学科の特色の1つとなっています。

来年度のオープンスクールも参加者にとって有意義なものになるよう、入試広報部を中心に教職員一同、1年かけて準備していこうと思います。



広島国際学院大学による公開講座

## 第61回広島県高等学校駅伝競走大会を終えて

中島 拓弥 (普通科3年 呉市立昭和中学校出身)

僕たち陸上競技部は、今回の広島県高等学校駅伝競走大会において3位入賞を果たしました。今年1年間チーム目標として掲げていた2位には後一歩及びみせんでしたが、校名が広島国際学院高等学校に変わってからでは過去最高順位となりました。このような結果を出すことができたのも、校長先生をはじめ応援して下さいました先生方、保護者やOB、地域の方々、それとクラスの友人の支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。

また、この大会を通して得たものがあります。それはチーム全員で一つの目標を達成しようとする結束力です。陸上は個人競技ですが、駅伝に関しては団体競技です。実際に大会を走ったのは7名の選手ですが、その7名が万全の状態で行けるようチーム全員でサポートし、共に戦いました。チームの目標のために自分が何をすべきなのか一人ひとりが考え、結束し実行できたことが今回の結果に繋がったのだと思います。

次回はさらなる飛躍ができるように、1つ1つの大会をチームが最高の状態で臨めるよう全員が協力しベストを尽くして頑張りますので、応援よろしくお願います。



7名の走者をチーム全員で支えての3位入賞





雨の中行われた準々決勝

## 8年ぶりの中国大会出場

主将 池田 一貴  
(普通科2年 安芸太田町立戸河内中学出身)

硬式野球部の中国大会進出は、実に8年ぶりのことです。10月22日の開幕戦の対戦相手は、島根県立安来高校でした。僕たちの試合は開会式直後であり、中国大会初戦ということでみんな緊張しているようでした。けれど試合が始まればそんなものはなくなっていました。初回到1点を先制し、良い流れで試合を進めることができました。2回到1点、5回到4点を加えることができ、最終的に6対1で勝つことができ

ました。

10月24日の準々決勝、創志学園高校との試合では初回到2点を先制され、その後は僕らのチャンスが続きましたが、6回の裏にやっと1点を返すだけになってしまいました。7回以降もチャンスを作りましたが、あと1本が出ませんでした。10安打14残塁、僕自身もチャンスで打つことができませんでした。

中国大会を思い出すと、自分が打てなかったシーンばかりが頭をよぎってしまいます。本当に悔しかったです。この悔しさを胸に秘め、今年の夏は絶対に県大会で優勝して、甲子園への切符を勝ち取りたいと思います。

## 第65回国民体育大会千葉国体でゴルフ部が活躍

ゴルフ部監督 橋田源太郎

本年度の広島県ゴルフ競技少年男子は、奇しくも本高校の3名が代表権を獲得しました。久志岡俊海君(普通科3年 広島市立仁保中学校出身)、村山駿君(普通科2年 呉市立昭和中中学校出身)、長谷川祥平君(同 廿日市市立大野東中学校出身)の3人です。気心の知れた本高校のチームメイトと言うこともあり、試合に臨んでは選手全員が上位入賞を口にしていました。結果はゴルフ競技少年男子の成績としては広島県で過去最高の3位となり、表彰台に上がることができました。ただ優勝できるチャンスも十分あったと思います。

今回のミス修正し、来年度開催される山口県では地元の利を生かして優勝を狙いたいと思います。皆さんの応援をよろしく願います。



千葉国体でも大健闘のゴルフ部メンバー

## 夏の全国高等学校文化祭(ふくしま総文)出場決定!!!

去る10月30~31日、呉市文化ホールで第34回広島県高等学校総合文化祭音楽祭が開催されました。来年度の全国総合文化祭に出場する団体を選出する大事な大会に、今年は広島県内の高等学校の吹奏楽部・弦楽部49団体がエントリーし、白熱した演奏が繰り広げられました。

本高校吹奏楽部は30日の25番目に53名で演奏を行いました。曲はピエトロ・マスカーニ作曲の『歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より』です。曲中には合唱も組み込まれ、繊細な表現力が試される難しい曲で、全日本吹奏楽コンクールでもよく取り上げられています。イタリアオペラの荘厳で美しい響きにどこまで迫れるかをテーマに練習に取り組んできました。選考の結果、本高校は8月4~5日に福島県いわき市で開催される第35回全国高等学校総合文化祭への切符を手にすることができました。

日頃の吹奏楽部の活動に対する皆様方の温かいご支援の賜物と感謝しております。広島県代表として恥ずかしくない演奏をするために、これからも精進して行きたいと思ひます。



広島駅南口地下広場での定期演奏会(11月28日)

# 第43回高城祭 『決意』を終えて



味自慢の店が軒を連ねたバザー



豪華景品続出にビンゴ会場はヒートアップ

高城祭実行委員会 委員長 中下 貴博(広島国際学院高校出身)

10月23～24日に広島国際学院大学の中野キャンパスグラウンド野外特設ステージにて、高城祭が行われました。

1日目の当夜祭では天気は曇りでしたが「2Smile」と「瑠璃」のライブが行われ、グラウンドを沸かせてくださいました。さらに今年は皆さんに楽しんでいただきたく、一般参加型ゲームである「人間輪投げ」等の新企画を増やしました。ゲームに参加された方にも、会場でご覧になった方にもお楽しみいただけたのではないかと思います。当夜祭の最後にはビンゴ大会が行われました。40インチ型テレビや折りたたみ式自転車等の豪華景品がステージにずらりと並び、場内は期待と高揚感に包まれました。めでたくビンゴになられた方々が大喜びで景品を持って帰られる姿が印象的でした。

2日目の終夜祭では雨が降りましたが、それでもステージや展示、バザーなど多彩な催しが行われました。カラオケ大会ではさぐるみを着たまま熱唱を披露して下さった方もいらっしゃいました。さらに、もの凄く気合いの入った地域住民の方がスパイダーマンのコスプレで参加して下さい、強烈なインパクトで今もよく覚えています。悪天候のなか、ステージにて学生によるライブを行いました。元気の学生がステージ前で一生懸命

飛び跳ねながら盛り上げてくれている姿は、見ている側も楽しくて仕方ありませんでした。無料ゲストLIVEには人気グループ「ROCK 'A' TRENCH(ロッカトレンチ)」が来学ということもあり、あいにくの雨にもかかわらず大勢の方がおいでくださいました。最後に花火が打ち上がり、感動的なエンディングが行えました。帰宅する際には電気主任技術者国家試験受験クラブに協力していただいたイルミネーションが輝き、そこで誰もが足を止めていました。開催している側としても本当に楽しかった大学祭でした。



スパイダーマンも緊急参戦?カラオケ大会

## 袋町キャンパス開所記念講演会

11月5日、新設の「広島国際学院大学 袋町キャンパス」の披露を兼ねた記念講演会を開催しました。

講演会ではNHK広島放送局技術部の松下吉宏部長に、「地上波デジタル放送への完全移行に向けた現状と将来動向」のテーマで基調講演をしていただきました。7月に迫ったデジタル放送への完全移行に向け、デジタル化の目的や利点、現状と課題、将来のデジタル放送等について論じられました。



講演するNHK広島放送局の松下部長

その後、本学の4学部長が教育・研究等の現況を紹介するとともに、各学部における研究成果・産学共同研究・地域活動等のパネルも展示しました。

この講演会には、公的技術支援機関、地域企業の技術者、本学院関係者等約80名が参加して、熱心に聴き入っていました。また、講演会後に開催された交流会にも多数の方が参加され、情報交換・名刺交換等で賑やかな雰囲気となりました。

袋町キャンパスは、広島朝日ビルの解体により閉鎖された立町キャンパスに代わり、新たな地域との交流拠点としてオープン。「地域社会への貢献」と「本学院の情報発信」を目的としており、語学講座、国際交流等の多種多様な講座を開設し、生涯学習環境を一般市民の方々にも提供することによりしております。

## 留学生の声

# 日本語研修・インターンシップに参加して

情報デザイン学部 1年 チョ ミ ウィン  
(ミャンマー出身)

私は、8月24日～9月9日までの週2回行われた日本語研修事業に参加しました。研修では日本のビジネス文化について学び、基本的な履歴書や志望動機エントリーシートの書き方、ビジネス場面で必要となる基本的な敬語、メモの取り方、実践的な会話も習いました。さらに挨拶、名刺交換など、面接やビジネス会話の話題とできるよう、新聞の特徴を学んで読解練習と集団面接の練習をしました。

研修中、日本人の家で1泊2日間のホームステイをしました。ホストファミリーとボーリングや温泉へ行きました。一緒に生活し、食事やショッピングやおしゃべりなどの中で、日常生活での生きた会話を体験できました。2日目の晩御飯にホストが作ってくれた寿司は美味しかったです。私もホストから教えてもらいました。国へ遊びに帰ったら父、母と妹に作ってあげようと考えています。

また、9月13～16日まで、4日間のインターンシップ事業にも参加しました。参加する前に、会社訪問をしなければなりません。この時、何も分からず普通の服装で行きました。会社の担当者とお話して帰る時、服装や髪などどうすればいいかなど、気になったことを聞きました。担当者から優しく説明していただきましたので安心しました。

インターンシップに参加して私は色々な知識を得ることができました。会社の基本的なルールやマニュアルを読んでその厳しさに驚きました。さらに、仕事上のメールの使い方、見積書の作り方、宛名シールの作り方、仕事の重要な手紙を送る作業をしました。幸い最後の日にお客様が来ましたので、お茶の出し方も教えてもらいました。これらの体験を経て自分の弱さが分かりました。もう一つ企業でのインターンシップを通して分かったのは仕事の楽しさ、難しさなどです。アルバイトとは違った色々な経験から、自ら考えて行動する力の大切さを学びました。

この経験がこれからの就職活動にきっと活かせると思います。このような機会を下さった方々や、お世話になった会社の皆様にほんとうに感謝しています。



高城祭でのチョンさん(中央)

## 図書館懸賞作品コンクール審査結果

図書館長 中川 紀壽

図書館企画行事として2010年度の図書館懸賞作品コンクールを実施しました。今回は後援会からいただいた拠金を基に、募集作品を読書感想文だけでなくエッセイ、そのほかとして募集しました。結果は下の通りで、11月29日に審査委員会委員の方々の立会のもと表彰式を行いました。表彰式の後、受賞者にはそれぞれ受賞の感想を話す機会ともなりました。これらの作品は「図書館だより」No.47に掲載する予定です。今回のような作品コンクールは、学生が本の感想や日頃の想いを文章にする習慣を身に付け、読書力や作文力を育てることとなるため、次回も行う予定にしています。



表彰式後の記念写真。

〔後列〕松尾教授、中川館長、野村事務部長、森田図書館課長補佐

〔前列〕岡村君、高田君、加藤君、王さん

最優秀賞 「社長・清畑宏の天国と地獄—大分トリニータの15年—」を読んで

岡村 惇 (現代社会学部2年 並木学院高校出身)

優秀賞 「『性別が、ない!』ということ。」を読んで

高田喬介 (現代社会学部2年 広島国際学院高校出身)

優秀賞 「水木しげるの昭和史」

加藤有希 (現代社会学部2年 広島国際学院高校出身)

佳作 「図書館と私」

王 偉静 (情報デザイン学部2年 中国 吉林省出身)

## 名誉教授 高須登先生ご逝去

—学院に多数の絵画を寄贈—

名誉学院長 西本 五郎

本大学名誉教授の高須登先生が去る9月19日、96歳で永眠されました。

先生は現在の中国電力(株)の技術研究所に在職中「送配電線の対塩害碍子」の研究で特許を得、大阪大学より博士号を取得されました。退職後、鳥取大学教授を経て本大学工学部の教授に就任。65歳から80歳までお勤めになり、名誉教授の称号を贈られました。

また若い頃から趣味の油絵にいそしみ、神社仏閣を主なモチーフに制作。日展の会友、一水会の会員として活躍されました。我が学園にも数多くの作品をご寄贈いただいております。正に研究と趣味に没頭した生涯と言えましょう。惜別の情一入です。



高須先生作品  
「薬師如来と神将」

# タイ王国農業省との協定によるタイ人博士誕生

— タイ農業省研究員 シャバーバン レアウングブチビロジさん —



奥田学長から学位記を授与されるシャバーバンさん(右)

広島国際学院大学は平成20年9月9日、タイ王国農業省、農業研究推進機構(ARDA)と共同研究協定(MOU)を締結しましたが、その協定による初の博士が誕生し、平成22年10月20日、本大学学生会館「ほことり」で学位授与式が盛大に行われました。テレビ局や新聞社も取材に訪れ、それぞれ広く報道されました。

当日はタイ農業省、ARDA所長のナパワン ノパララポルン博士、タイ農業省国土開発部副局長のホンゴトクリアングサク氏他1名のスタッフも授与式に参列。ナパワン氏とホンゴト氏はスピーチで、この博士号授与がタイ農業省にとっても大変名誉であり、本大学の指導、研究活動のレベルの高さを示していると指摘した上で深

く感謝すると述べ、大いに評価をいただきました。

山口大学、京都工芸繊維大学、立命館大学など我が国6大学と同時期に締結した本協定の中でトップをきっての博士誕生です。しかも2年という研究期間で6編の研究論文を発表し、2つは著名な国際的学会誌に掲載されるなど、高いレベルでの博士号授与となりました。シャバーバンさんはもともと優秀な方でしたが、本大学とタイで非常なご努力をされた結果です。

シャバーバンさんの博士論文のテーマは「カヤ草、微生物肥料、及び有機肥料による微生物的な土壌改良」(英文)という農業工学関連の研究です。タイの乾燥土壌(半砂漠)の酸性で不毛な土壌を種々の微生物作用を活用して改良し、トウモロコシや野菜の収量を1.5倍から5倍程度に上げる研究で、タイばかりでなく、世界中で活用できる新農業技術となっています。特に、カヤ草(ベティファー草)を使って土壌の崩落を防止すると同時に、根に住み着く根粒菌などの微生物の作用で肥料効果を上げ、荒れ地にカヤ草を植えるだけで農地に変え、しかも作物収量も増加するという、タイ国王も推奨するすばらしい研究成果を上げ、国際学術雑誌に掲載されています。この技術開発は中国、インドでも興味を持たれています。世界中で活用できる技術開発と言えるでしょう。シャバーバンさんは、主にタイで研究を進め、本大学で遺伝子など解析実験をするなど交流し成果を出しました。

本大学バイオ・リサイクル専攻では、農業工学の一分野としての農業技術開発を10数年前から実施しており、農業研究には実績があります。また、食と農にかかわる研究開発も最近は力を入れております。農業のコースを持っている私立大学は広島地区にはなく、非常にユニークなバイオ系をもつ大学となっています。今回の博士号授与もこれら長年のバイオ・リサイクル専攻での活動の成果の一つと言えるでしょう。



タイ農業省と本大学の関係者が博士誕生を祝った

## ★ 今後の主な行事予定

(赤字は公開行事です)

大学・短大	推薦入試 (短1/15)	一般入試 (大 前期2/2~3 後期3/10 短 前期2/3 後期3/16)	会社説明会 (短1/31~2/1)	卒業論文発表会 (現2/12:袋町キャンパス)
			学内合同企業セミナー (大2/15~16)	卒業制作選抜展 (情デ2/18~20:アステールプラザ)
			卒業証書授与式 (3/19)	入学宣誓式 (4/5)
高校	献血 (1/14)	マラソン大会 (2/11)	一般入試 (2/15~16)	卒業式 (3/1)
			入学式 (4/8)	

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536